

まんとく

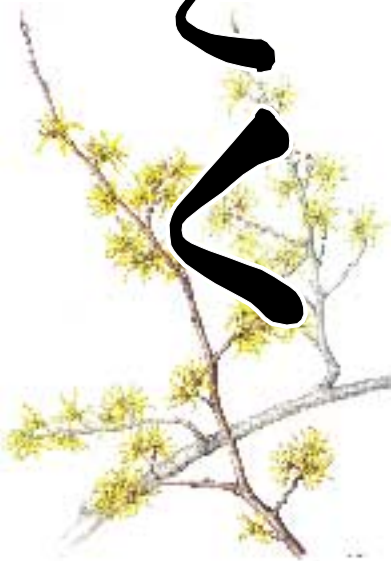
オープンキャンパス 開催される

学務課長 安達 雅彦

平成十三年九月八日の土曜日、百三十五名の参加者を迎えて本年度のオープンキャンパスが開かれました。ここに、その一部を報告いたします。

看護学科と地域福祉学科では、それぞれ基礎的看護技術の体験と介護技術指導が行われ、参加者は両学科の実習の根幹に、熱心に取り組んでいました。幼児教育学科は、在学生によるミュージカルやピアノ演奏等の実技と展示で講義内容の一部を紹介しました。また、各学科とも恒例の模擬講義を行い、参加者には一足早い短大生気分を味わってもらいました。各学科とも参加者から多くの質問があり、積極的に本学の情報を求めていることが、うかがわれました。

本学は、テレビや新聞で入試の情報を提供していません。したがって、オープンキャンパスは希少で貴重な情報発信の機会です。受験生がオープンキャンパスに何を求めているのかを詳細に検討し、さらに効果的なプレゼンテーションを目指して、いっその努力が必要でしょう。



地域福祉学科

初めての介護実習を体験して

一年次生 上田 育美

私にとって第一段階の実習は、多くの事を学ぶ場として、大変貴重な二週間となりました。初めての实習で、何をすることも緊張していた私は、顔にも行動にも余裕がありませんでした。しかし、寮母さん方の気づかいや、利用者さんと上手にコミュニケーションをとれるようになるにつれて、自然に笑顔になっていく自分を感じました。そして、私が笑顔で接すると、利用者さんにも笑顔が増えてきた事に気づきました。そこで改めて、「笑顔で接する事」の大切さを実感しました。また、技術面においては、自分がまだまだ努力が足りていない事に気づきました。学校で友達相手ならばできた技術も、実際に利用者さんを前にすると、緊張などで上手に介護ができませんでした。技術は、練習を重ねてどんな状況においても行えるようにしておかなければいけないと感じました。この実習で学んだことを、これからの生活や実習へと生かしていくように努力していきたいと思えます。

一年次生 小坂由紀恵

第一段階の実習は特養であり、施設の日課にそって基本的な援助技術方法のみならず、通所サービス、リ



平成13年度 実習出発式

ハビリ、荘外散歩など関係機関の職員の方々の協力を頂きながらの実習でした。また毎朝のミーティングにおける職員間の情報や意見交換などを通して施設におけるサービスの提供全般や介護の職場への理解を深める事ができました。日々の関わりの中で利用者、介護職員の方々の「生の声」も聞く事ができ、「もつと散歩に行きたい」、「個々のニーズにあった入浴介助をしたい」等々、それぞれの立場の声の中に自分の老いを重ねながら、「受容」「共感」し、心を傾けて聴く困難さも実感しました。また生活の場の施設の中では、介護職、看護職との連携の中で、日常生活の中の利用者の微妙な変化を素早く見極めながら対応する判断力

が要求され、看護に近い役割を担う場も多く、介護だけでなく、看護の知識の必要性や重要性を再認識する事ができました。

一年次生 古谷 千春

「もう一週間続けたい。」これが、実習終了後に私が思った事です。最初は、実習打ち切りになったらどうしようとか、利用者さんと上手くコミュニケーションがとれるか等、不安と緊張で一杯でした。しかし、施設の方や利用者の方々が、気軽に優しく接して下さり、二週目からは、楽しいと感じるゆとりも持てるようになりました。二週間は長いようで短く、けれども、その間に私は多くの事を学び、自分の視野をほんの少し広げる事ができました。学校での授業が全てではなく、且つ、絶対に正しいというわけではない。頭では理解できていても、身体が上手く動かない。これらの言葉の意味を、身をもって知る事ができたように思えます。「まず基本があつて、その上に応用がある。学校で基本が出来ていれば、施設でもどこでも応用できる。」私の実習先の主任さんの言葉です。介護の勉強を続けてゆくと、くうえでの教訓であり、常に心に留めておくべき言葉だと私は思っています。

一年次生 平井悠美子

養護老人ホームが第一段階の実習

の場でした。健康な利用者が多く、歩行困難ではあるが自立している利用者さんがほとんどの中での介護です。私はこの度の実習で見守り介護の大切さを学びました。一つは、安全面での見守りです。一つ一つの動作が困難な利用者に対しては「そばにいますから安心して下さい」という気持ちで接することです。もう一つは、精神面での見守りです。集団の中で生活されている利用者は、寂しくなにかというところではありません。一人一人は、何らかの事情で家族と一緒に暮らせない寂しさを持っておられます。廊下で会えば、明るく挨拶を交わし、部屋を訪問しては、健康状態を確認して、コミュニケーションをとることで信頼関係を作ることに努力しました。背中を向けて仕事をしても、心は相手の方を見ているような見守りの姿勢を今後の介護に生かしたいと思えます。



幼児教育学科
二年生のメッセーヂ

二年生のメッセーヂ

みんなと出会って、いろんな意味で変わったよ。ドーもね♥ ナオコ あつという間の日々でした。みんな、バイバイ ヒト

みんながいたから沢山の辛い事も乗り越えられた。ありがと！ わき 新見での二年間はアツという間だった！みんなありがとね！♥まみ あつという間の二年間だったけれど、楽しい思い出が出来た♥ Y みんなに出会えて、ほんと良かった。ありがと♥ ちづる

新見で出逢った人達。一生忘れんよ♥人も町も全部大スキ♥春菜 二年間早かった。ここで会った人みんなにありがと♥ いと 『スメバミヤコ』まさに新見！二年間ぶち早かった ナオ

片道二時間の通学。みんなに出会えたこと。全部私の宝物です。真子 すべての悩みから脱却するには行動が必要。人生は一度きり。みどりときめき メモリアルにいま♥

ひとんちや 忙しくて大変だったけど、みんなに会えて良かった。ありがと♥きら 指宿から一日かけて新見来たかいあった。やつぱ新短でしょ。カオリ 楽しいことも嫌なことも沢山つまった濃い二年間でした。 S



いろんな「方言」を学べた二年間だった。楽しかったつちゃ。くり 二年間早くて楽しかった！いつか絶対みんなと再会したか！かなこ おー あわただしく忙しかった。ねむりたいなあ！ M

新見がもつと開かれることを心より願います。ありがと。…りんご 新見市のますますの御発展をお祈り申し上げます。 S藤Mぐみ 二年間ありがと！みんなと出会えてよかった。 美郷

出会いはとても不思議なもので、偶然が偶然を知らぬ間に運んで愛何もない新見での田舎暮らし。それなりに楽しかったよ！ サンソン 短大でよかった新見。星は何でも

知っている アピカ

みんなに会えたことが私の宝物 遠く離れても絶対忘れないよ 理沙 私の二十年間の人生の中で最も身の濃い二年間でした。 そっち

みんなに会えてよかった。 ああ新見なるわが青春。さらばよ 新見。ありがと新見。 Y

皆さんのことを学びました。ありがとよ。新見。 きょうこ 新短での二年間は嵐の様に過ぎました。皆ありがと。幸あれ♥ H

自分の弱さも、人の優しさも知ったこの新見が大好きです。 Y 何かと文句の多い私でしたが、やっぱり新短はいいですわ。 恵子 一人ではつくることのできない皆さんの思い出ができました。倫子

皆さんの思い出をありがと！ 第四の故郷、新見。 和美 早かったね二年間。忙しかったね二年間。楽しかったね二年間。 M

いつまでも絶えることなく友達でいよう！ ハル 忙しかったけど、いろいろな意味で来てよかった♥ 麻加

プティコンで歌った「ベストフレンド」感動したね ルンちゃん 新見で最高の友だちに出会えたよ。ありがと。 ゆかこ 道はどんなに険しくとも笑いながら歩こうぜ闘魂！ありがと。 猪K

りがと。 りか

二年間、とつても楽しかったな。 四月から社会人か。 教祖 すぎきな二年間でした。みんなありがと

新見にはめっちゃびつくり もうすぐみんなとはお別れだね。 Y みんな新見の太陽でした。離れても共に光り続けましょう！ノゾミ 人生転がったもん勝ち 新見は星も雪もきれいやった♥ まる

もっとはじめて遊びたかったけど・・今となっては、まあいつか♥ Y 忙しい毎日だったけどステキな友達に会えてよかった！ ちこ 個性豊かなみんなに出会えてとっても楽しかった！ありがと。 恵理



看護学科

スキー実習開設に関して

桑原 一良

本学開設時に、文部省に提出する魅力あるスポーツ関係のカリキュラム作成を要請された。当時、他大学でも実践している、集団生活とスキーをセットにした実習を取り入れようと考えた。ネックになるのは、本学に、スポーツ関係のスタッフが一人しかいないことである。これではその一人が病気、事故など不測の事態を生じた場合、実習は成立しない。しかも、実習中に大自然の空間で、一人で責任体制をどう取るのかという問題があった。周囲に相談しても、大胆過ぎると批判された。さらに、開学時の初代看護学科長丸川先生より、「先生、二年生の最後で骨折したら、四月からの病院実習がむずかしい」と、心配の声が届いた。

困りはてた後、岡山商科大学の大谷先生に相談すると、「私も先生と同じ責任を取りましょう。先生が病気をすれば私が指揮を取ります」と、応じた。さらに、岡山大学の安田先生は、「岡山大学からもスタッフを派遣し、補助者として体育専攻の学生を連れて行けばよい」と、ご指示をいただいた。各先生方とよく話し合い、大きなけがを絶対にさせないカリキュラムを工夫することにしました。その結果を受けて、丸川先生に

了解を求めた所、先生は快諾された。その後も先生は、看護科の先生を一人派遣するなど、スキー実習に大変な配慮をしてくれた。

三人のスタッフは、大山スキー場で各大学の実習を重ね十分に熟知している。手伝う岡大体育科の学生もここで経験をつんでいる。総員が現場を知っていることで、当初から大きな安心感を持てた。宿の選定は、しっかりと雪道を歩くことでウォーミングアップさせ、けがから身体を守ることを第一に考えた。集団の生活をねらうには、個室より、複数で宿泊させるのがよいなどの結論に達した。このようにして二十一年のスキー実習が無事に歴史を刻んでいる。



山楽荘の下で撮りました。

みんな笑顔 だげど筋肉痛 x

(二年次生 坂本美有紀)

ゲレンデの小熊のプーさんより

スキー実習担当 大谷 崇正

看護学科の皆さんお元気でしょうか。ゲレンデの「小熊のプーさん」こと岡山商科大学の大谷崇正です。

桑原先生が本学から新見に赴任されて、「スキー実習を開講したいので是非とも協力を。美人そろいじゃやえー、大谷さん来られえー」との要請があり、その当時、独身でもあり下心をもって行ったのが二十年前です。七年前のアメリカ滞在中を除いて、未だに元氣(アリナミン五錠飲んだくらい)で参加しております。

昨夏、研究室を移転したとき、皆さんが送ってくれた写真や手紙を整理しながら、懐かしく思い出しておりました。「お忘れと思いますが……」という書き出しの手紙が多いのに驚きました。そんなことは決してありません。

ちなみに写真は、二期生のとき大雪で二十人が入れるかまくらを二日かけて造り、毎夜この中でミーティングしたときのものです。正面にあるのがごもり傘で作ったかまくらの守り神「烏大明神」です。私を枕に眠っているのは石原さんでしょうか。

上級班恒例のスキー場から山の中を旅館まで帰る途中、断崖から落ちそうになった人、深雪に埋もれて身動きできなくなった人、大木に衝突



した人、旅館を見てホツとしたのか泣き出した人、最後の打ち上げで楽しませてくれた人、私の作り話(仏間の幽霊)に眠れなくなった人、思い出せば切りがありません。楽しいひとときをありがとうございました。

二十年も継続すると、このスキー実習に欠席できない義務めいたものを感じるようになりました。今後も体力の続く限り参加したいと思えます。卒業生の皆さんも母校の実習にあわせて一度ゲレンデまでお越しください。小熊のプーさんのダンスを披露いたします。

スキーが皆さんの生涯スポーツの一つになっていれば幸いです。最後になりましたが、卒業生諸君の益々のご健勝をお祈りいたします。

よろしければここ

(E-mail ohtani@poosu.ac.jp)

に近況報告を。

同窓会のコーナー

「歴史」を思う

新見公立短期大学 非常勤助手

幼児教育学科第二期生

三好 年江



早いもので、短大を卒業して二十一年が経とうとしています。思えば二十年前、常々、先生方から「今の短大には何も無い。これからあなたたちが新見女子短大の歴史をつくっていくのですよ。」と言われていたことを思い出します。私たち二期生は、素晴らしい先生方や先輩方のパワーを感じながら、この短大と一緒にたくりあげていこうという思いが強くなりました。そして、私はその二年間で、社会人として、また保育者としてどうあるべきかなど、様々なことを学びました。

縁あって、十二年前新見に嫁ぎ、昨年の四月より母校で実習指導助手という仕事をさせていただいています。新見の地に住み、幼児教育の仕事に携わる中で、「新見の学生はいい」という評判を耳にするにつけ、あの頃言われ続けていた「歴史」というものを改めて感じ、太くしっかりとした歴史ができていたことを嬉しく

思うと共に誇りに思います。これも短大を卒業していった皆さんが、先生方の教えを胸に、この名に恥じぬようにと志を高く持ち、頑張つてこられた成果だと思えます。今後、この歴史が更にしっかりとしたものになるよう私なりにお手伝いできたら、と思っています。

新見中央病院

看護学科第七期生

金坂 里栄



看護学科を卒業後、看護婦になって十数年が経ちました。その間、多くの先輩方や患者さん方の支えがあったおかげで、今日まで仕事が続けられたのだと思っています。

去年の四月からは、臨床実習指導者をさせて頂き、今まで以上に先生方や学生さんと接することが出来ました。学生さんとの関わりの中では、年齢差に戸惑つこともありましたが、学ぶ姿勢・基本の大切さなど多くの事を学ぶことも出来ました。

看護の対象となるのは「人間」です。そのため、看護婦になつて何年経つてもこの仕事は難しいです。でも、やりがいのある仕事でもありません。忙しい毎日ですが、学ぶ気持ちをお忘れずにごんばりたいと思います。学生の皆さん、学生の時にしか出

来ない経験もたくさんあります。一日一日を大切にがんばって下さい。

平成十三年三月に看護学科を卒業され、三菱神戸病院で新人ナースとして働いている二人の先輩からお便りが届きました。

看護学科第十九期生

岡田 有加



私は今、消化器と眼科中心の2A病棟という所で、先輩方にたくさんアドバイスをいただきながら勤務しています。外科病棟なので、患者さんを看護する上で展開が速く、その分勉強できることも多いので、充実した日々を送っています。看護婦として働きはじめて三ヶ月。患者さんから毎日たくさんのお話を聞かしながら、時には悩みながら仕事をしています。また、悩んでいる時に相談できる先輩にも恵まれ、早く一人前になれるようにがんばっています。

看護学科第十九期生

中村 真理



病院で働き出してから三ヶ月が経

ちました。最初はその日その日を送るのに精一杯で一日があつという間に過ぎてしまつという状態でしたが、最近やつと慣れてきて、自分の時間を持つことができるようになってきました。自分の技術や知識の無さを思い知らされたり、失敗をして落ち込んだり、何をやるにもわからないことばかりで毎日が勉強ですが、先輩方に親切に教えて頂いてすごくありがたく思っています。また、働く前は患者さんとの時間をゆつくり取りたいなど考えていたのが、業務に追われていっばいっばいになっていく自分にふと気付いた時は、すこくなさけなくなつたりもするけれど、自分なりに一つ一つ乗り越えていけるよう、がんばっていこうと思っています。みなさんも勉強や実習で一番つらい時期だとは思いますが、自分の夢に向かってがんばって下さい。



学報「まんさく」や同窓会のページについてのご感想、要望などがございましたら遠慮なくお知らせ下さい (e-mail: mansaku@nimi-c.ac.jp)。

平成十三年度 卒業研究テーマ一覧

【看護研究】看護学科

総合看護

指導教員 逸見英枝・宇野文夫・塚本智恵子・小野晴子・杉本幸枝・貞岡美伸・白神佐知子・土井英子・斎藤健司

抑制に対する考え方や看護学生のアンケート結果から、岩越 亜姫 ストレスと環境の変化がアトピー性皮膚炎に与える影響と対処法

塩満 麗子 尊厳死に関する意識調査

番下麻衣子 看護学生の健康に対する意識に関する研究

山口 敬子 わが国初のホスピスをつくった長谷川保の生涯

溝口 由香 看護婦（士）に対するイメージの変化

西浦 悠希 看護婦（士）の職業継続

平川 葉子 温泉療法の変遷

石本 理栄 アレルギー疾患によるストレスについて

平田真由美 これからの性教育のあり方について

山口 真世 STDの蔓延を防止するため

わが国における性教育の実態と性感症としてのクラミジア感染症罹患率との関連性を調査し考察す

文献研究

岡 奈緒美 ヒートショック法による増殖再活性の大腸菌を用いたモデル実験と環境細菌検査への応用

坂元 美保 新見公立短期大学学生のアンケートによる経口避妊薬に関する意識調査によって明らかとなった避妊に対する知識の不足について

東本 麗花 岡山県南のある高等学校に在籍する三年生の性、性教育、性感症、避妊法に関する意識調査

守屋 晴美 レジオネラ菌の生存条件について

駒居 貴子 科学技術発展に伴う民間の意識、「遺伝子組み換え食品」に対する意識調査をとおして

鈴鹿 由佳 口腔ケア後の好気性細菌の動向

土井美和子 基礎看護

小野晴子・金山弘代・杉本幸枝・真壁幸子

患者から学ぶ自分自身3事例を振り返っての自己分析

松本 典子 床上排泄時の安楽な便器と体圧・体格からみた相関関係

西 加容子

本学看護学科3年生の環境整備に対する考え方の行動 真木 智子
本学看護学科3年生の環境整備での訪室時の観察力の実際

吉田奈緒子 全盲患者の口腔内保清への援助

曾我 麻希 思春期におけるダイエットに関する実態と高校生を対象としたアンケート調査より

斎藤 純子 成人看護

逸見英枝・金山弘代・金山時恵・真壁幸子・白神佐知子・土井英子

指導教員 逸見英枝・金山弘代・金山時恵・真壁幸子・白神佐知子・土井英子

癌で両親を亡くした家族の心理とその看護介入と家族へのインタビュを通して

松崎 麻耶 告知を受けた患者が望んでいる看護について

告知を受けた患者のインタビューを通して

栢崎 由美 ストーマ造設患者を通して学んだこと

岡野 りえ 看護における観察の重要性と術後の急変で再手術を受けた患者さんの看護過程を振り返って

小西 彩 排尿の自立を困難にしている要因

尿失禁患者Hさんの事例を通して学んだこと

原口 涼子 聴覚障害患者の外来受診における医療者の役割

氷室 礼奈 乳癌患者の心理的变化と外来通院患者のインタビューを通して

鴉 操

患者との関わりを振り返る胃腸の告知を受けているKさんとの関わりを通して

中西 直子 患者・家族の相互関係と看護者の役割と家族に依存的な患者との関わりを通しての考察

福山 恵美 高脂血症患者のセルフケア行動の見なおしと指導援助による変化の検討

坂本美有紀 聴くことから始まる看護

森下 由美 老年看護

古城幸子・木下香織 指導教員 古城幸子・木下香織

鳥取西部地震における千屋住民の心理的サポートとその課題とその1・被災状況と行政的支援を通して

芋谷 直美 鳥取西部地震における千屋住民の心理的サポートとその課題とその2・被災状況と行政的支援を通して

室井 麻希 看護・介護学生の専門性への意識

ペーパーペイシエントによるケア選択の相違

加門 寛子 特別養護老人ホームにおける看護職員の専門性に関する研究

看護婦の役割・意識について

坂林加名子 第二号被保険者の介護保険制度に対する意識調査

高齢化率の違による比較調査

伊郷 実 痴呆高齢者の行動の理解と看護

鬼塚 美帆 学生の高齢者に対するイメージについて

仁里 靖美

地域看護

指導教員 金山時恵

在宅介助者の褥瘡への取り組みの現状 上田美紗都

介護保険導入後の利用者、介護者の意識、中山間地域である〇町と都市部であるS市との比較調査、竹原 陽子

在宅での介護に対する意識、三世代対象のアンケート調査より、細川 博世

小児看護

指導教員 上山和子・貞岡美伸

乳幼児の健康支援について、病児保育の実際から、片岡 奈美
遊びが長期入院時に与える効果

学童期の清潔行動について 田正司優子

学童期の食生活習慣と排便習慣との関連性 中原 愛
浜田 佳奈

川崎病で入院している児の母親への援助、双生児の事例を通して、林 芙美子

虐待・母親の育児態度と共存 白石 和子

母性看護

指導教員 湯舟貞子・貞岡美伸

高校生の子どもに対する印象 浅野 清恵

母性病棟における看護士の役割と期待 岡川 寛

男性助産士導入に対する女性の意見 曾谷 梓

育児に関する意識調査、子どもの

虐待

幡司 真希

乳児院の施設職員の母性意識について 福若 瞳

出生前診断を考える、羊水検査に関するアンケートより、山本 淳子

十代で出産した母性の社会的背景、インタビュー内容の分析、喜始 文香

緊急帝王切開で出産した母性の心理的变化、自己の出産体験を通して、新谷 理恵

母性の育児に対するストレス 堀内 裕子

高校生の食生活に対する意識調査 増田 恵美

精神看護 塚本智恵子・金山弘代・土井英子

精神科患者との関わりを通して 出射 和美

精神障害者に関する法律と社会復帰 上田 実穂

人を受け入れるということ、精神看護学臨地実習を通して、古賀美智子

癒しの音楽について 野田 直美

精神疾患患者との関わりの中で学んだこと、患者とのコミュニケーションを通じ自己を振り返る、宮成 静香

芸術療法が痴呆性老人にもたらす心理的な効果、通所デイケアにおける芸術療法の実際、上野 順子

患者との関わりにおける自己の傾

向、精神科看護実習における再構成を通して、垂井 恵

【総合研究】幼児教育学科

社会福祉（指導教員 東 俊一）

小集団における知的障害児の社会的相互作用訓練 新井可奈子

知的障害者本人の意志表明に基づいた余暇活動の実践 池田 真美

知的障害者に対する地域社会の意識調査 糸川 昭子

子育てに対する母親の意識調査 宮脇絵里子

教育学（指導教員 矢藤誠慈郎）小学校における英語活動の導入に関する研究 井龜 由美・岡原 京子

乳幼児保育指導教員 佐藤 祥子・安田 真美

母親の離乳食に関する意識についての一考察 伊藤 麻加

現代社会における認可外保育施設の現状と課題 家守 悠奈

保育所乳児クラスの「担当制」について 時政恵理・仲摩ひとみ

乳幼児の食生活の現状について 中野百合子

紙おむつ・布おむつについての一考察 秦 真知子

音楽（安達雅彦）

ブラムスのハンガリー舞曲の研究 石井 里佳・大石 真子

童謡について 吉良 美穂・佐藤めぐみ

身体表現のための作曲、「街を歩

けば、」 平川 あい

シューベルトの歌曲について 若木 暢子

音楽教育（指導教員 山中 文）幼児期における音楽舞台作品鑑賞の機能について、ミュージカルの視点から、児嶋 恵子・酒田 瞳

中曾由美子・西島 洋子

原 飛鳥・水本 朱美

造形表現（指導教員 金山和彦）ままごと玩具についての一考察 宇高 真子・勝部 美紀

写真についての研究 浦田 幸奈

発達心理学（指導教員 石橋由美）

幼児の死についての経験とその援助 青木 春菜・矢野貴久美

大学生の結婚観とキャリア選択、家事・子育ての性別役割分業意識

出水美子・大石和美・越野ゆかり

大学生の性差観と子どもに対する性別化期待 寺谷 希美

身体表現（指導教員 片山啓子）

舞踊作品の構成と演出、創作ダンス「街を歩けば」 今原 香織・小倉 明美

城戸 仁美・小林久里子

野本 留美・小林みどり

山村日登美・吉尾 理沙

山原有香子 幼児教育（高月教恵）「ことばの教室」について 清原 千鶴・平 美沙希

エレン・ケイのめざした教育

坂本 典子

保育場面における「生きる力」について
田中 千絵

モンテッソーリの感覚教具について
広池 美郷

絵本の読み聞かせと家庭での取り組みを中心に
守田 尚美

【地域福祉研究】地域福祉学科

指導教員 山岡喜美子

高年齢者虐待の事例と負担による悲劇
小倉 朋美

これからの介護とユニットケア
西中 友梨

指導教員 岩崎竹彦
「ふるさと」の活性化と阿新地域の事例より
大枝千佳恵

改葬についてと大佐町田治部の事例より
田邊 美喜

遊び
中川真由美

実名報道と少年法の改正について
山本 達也

指導教員 井関智美
高年齢者の障害別日常生活行動時間の分析と施設で暮らす高年齢者の1分間タイムスタディより
大川 説子

施設入所中の高年齢者と社会で生活している健康者のおむつ装着感と精神状態の分析
足木 裕美

高年齢者のデイサービスに対するニーズの分析とデイサービス利用者への面接調査結果より
山本 真知

第一回学術交流団の派遣について

平成十四年三月、本学より海外学術交流団が二組派遣されることになりました。一組目はアメリカ合衆国への派遣で、三月十九日から四月二日までニューヨーク州立大学ニユーパルツ校等で研修します。団員は桑原教授、塚本助教、山内助教、矢藤助教、学生十七名です。もう一組は大韓民国への派遣で、三月二十日から二十六日まで釜山広域市の東明専門大学等で研修します。団員は、石田教授、石橋教授、原田助教、山中講師、学生六名です。

平成 13 年度 進路状況 (2月13日現在)

内訳 学科	卒業生数 (人)	専門職 (人)	一般職 (人)	進学 (人)
看護 [20期生]	68	54 (1)	0	9 (4)
幼児教育 [21期生]	52	44 (3)	2	1 (2)
地域福祉 [5期生]	62	46 (14)	0	2

()内は、希望しているが決定していない人数

受賞のお知らせ

平成十三年度には本学原田信之助教授が、研究課題「岡山県における玄奘僧都伝説の研究」により、第二十三回財団法人両備権園記念財団・文化芸術教育研究助成部門の研究助成金を受賞されました。さらに、本学斎藤健司助手が、研究課題「癌進行時における基底膜コラーゲンの働きに関する研究」により、財団法人岡山医学振興会の研究助成金を受賞されました。記してさらなる研究の進展を祈念いたします。



編集後記

学報「まんざく」は、二十号から「同窓会の「コーナー」」を設け、昨年七月発行の二十二号から同窓会員との繋がりを深めるため、同窓生全員に送付することになりました。

反響は大きく、「非常に懐かしい」、「新見の思い出がよみがえった」、「次号を楽しみにしている」、「まんざくが届かない」などいろんな声が寄せられています。

しかし、約二千四百名のうち現住所が不明のため「まんざく」が届かない会員が二割にのぼっています。

いま調査中ですが、皆さんのまわりでそのような会員がおられましたら、住所を連絡してください。

(山崎)

イラスト

幼児教育学科一年次生

中庭美鈴・山室真美

委員長	原 信之
委員	伊藤 博康
	山藤 圭
	矢藤 誠郎
	斎藤 健司
	山崎 護